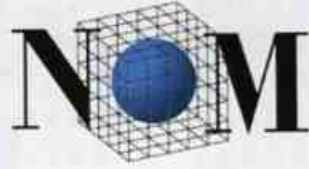


新潟県立近代美術館便り

# 雪 椿 通 信



開館10周年



第21号

2003.9

# 美術館開館10周年記念 大倉集古館名品展

10月18日(土)～11月30日(日)

大倉集古館は、日本で初めての私立美術館で、その所蔵品の属する時代の範囲は幅広く、また数、種類ともに極めて豊富な質の高いコレクションとして知られています。現在では国宝3点、重要文化財12点、重要美術品44点を含む美術品2千点余りと3万5千冊を超える漢籍が収蔵・展示されています。見るべきものは、平安時代からの国宝や重要文化財だけではなく、近代日本画も、横山大観や川合玉堂など、そうそうたる巨匠たちの名作・力作を所蔵しているのです。

この所蔵品は、なぜこんなにも多岐に渡っているのでしょうか。それは、このコレクションの土台を作ったのが大倉喜八郎・喜七郎の親子二人であるからでしょう。世代や生きた環境が違う二人は、親子でありながらも美術品に対する視点は随分違っていたのです。

美術品の蒐集を始めたのは、越後国新発田の出身である大倉喜八郎です。大望を懐いて数え年18で江戸に上り、髷節屋の丁稚から身を起こして、持ち前の機知と度胸とによって一代で大倉財閥を築いた大実業家です。喜八郎が世に出たのは明治維新による動乱の時代で、彼は数々の出会いと機運を捉えて世の中の激変の波に乗ったのです。

そして、美術品蒐集のきっかけもまた、明治維新によ

る変化がもたらしたものでした。藩制度の廃止や神仏分離政策によって、大名旗本家の美術品、寺院仏閣の仏像仏具などが大量に手放され、その多くが壊されたり海外へ流出、喜八郎はこれを嘆き、自ら買い取ったのです。喜八郎は「成金」「悪徳商人」などの悪評もあった一方「商傑」「大樹」と称賛された大人物であり、その根底には、日本を慈しむ心と宗教心が色濃く存在していたことが窺えます。パリの万国博覧会に出品され、現在国宝に指定されている〈普賢菩薩騎象像〉や、宗達派の作と伝えられる〈扇面流図〉は、当時から大変評判の高かった作品です。

そのコレクションの幅をさらに広げたのが息子の喜七郎です。大倉財閥の二代目として優雅に不自由なく育った喜七郎は、同時代の絵画を愛して擁護し、積極的に海外に日本画を紹介しようと尽力します。その結果実現したのが1930年に開催された「ローマ開催日本美術展」です。大観をはじめとした当時の日本画家たちは、出品作の制作のために激しく闘志を燃やしました。ここで発表された名作の多くが大倉集古館の所蔵となっているのです。中でも横山大観の〈夜桜〉の華麗さは圧巻であり、大観の作品中でも一番の名品といっても過言ではないでしょう。

## コレクション—10年の歩み 展

2004年 1月8日(木)～3月21日(日)

当館は新潟県立近代美術館として1993年7月15日長岡市に開館、今年で丁度10周年を迎えました。この間、着実に作品の収集を進めてきましたが、その数は平成14年度までで1000点余となり、県立近代美術館の前身の施設として25年に及ぶ歴史を持つ県美術博物館時代に収集された作品を合わせると、2,700点を超えるものになっています。収集は世界の美術、日本の美術、県ゆかりの作家の作品と、大きな3本の柱を基本に行われ、分野も日本画、洋画、彫刻、工芸等々多岐に渡り、多彩な作品群を構成しています。

今回の展覧会は、これまでの10年間に収集された作品の中から約130点を展示し、どのような経過を辿り所蔵品に広がり厚みが増えてきたのかを振り返るとともに、その魅力を再確認してもらおうとするものです。また、美術館全体の歩みにも注目し、様々な活動を見つめ直していきます。10年間に収集された作品は訪れる人の視線によって輝きを増し、鑑賞者を新たな出会いの場へと誘ってくれるはず。ここでいくつか、作品の収集年を振り返ってみることにしましょう。モーリス・ドニ〈夕映えの中のマルト〉平成5年、ケーテ・コルヴィッツ〈母

親と子どもたち〉平成5年、デューラー〈黙示録〉平成6年、中村彝〈洲崎義郎氏の肖像〉平成6年、牛腸茂雄〈SELF AND OTHERS〉平成6年、村井正誠〈ものうり〉平成7年、奥村土牛〈少女図〉平成8年、ロダン〈考える人〉平成10年、佐々木象堂〈鍔銀馬置物〉平成11年。近年は現代の作家作品も集中して収集されています。すぐイメージの湧く作品がある一方で、初めて耳にする作品があったかもしれません。

さて、当館では平成5年の開館記念展「大光コレクション展」を始めとして毎年5から6回の展覧会を企画、これまで合計58回の展覧会を開催してきました。また、講座、映画鑑賞会、ワークショップなど幅広い事業も展開してきました。平成6年には「シカゴ美術館展」、平成8年には1回目の「エルミタージュ美術館特別名品展 神と人間」、「横山操・加山又造展」、平成10年には「工芸のジャポニスム」展や「デザイナー 倉倉雄策展」といった展覧会が開かれています。平成11年の「パリ・オランジュリー美術館展」、昨年「マルク・シャガール展」なども記憶に新しいところです。

今回の展覧会を通じ、美術館への理解と所蔵品への愛着



大倉集古館の所蔵品には、この他にも能面や能装束、刀剣や出土品も数多く含まれます。しかし、今回の展覧会では、喜八郎が愛惜した仏教美術と近世絵画、喜七郎の尽力によるローマ展出品など、絵画を中心にをご紹介します。これまでまとまった形で紹介されることのなかった大倉集古館の、平安時代から近代までの名作が一堂に集まる希有な機会となるでしょう。

(主任学芸員 宮下 東子)



竹内栖鳳(鶏合) 1929年、ローマ開催日本美術展



初代・大倉喜八郎



前田宗祐(源朝小鳥図) 室町時代



《寶賢菩薩騎象像》 平安時代(国宝)

が増し、それが美術館活動の将来に対する希望と信頼へつながっていくのであれば幸いです。本展を機に所蔵品を見に美術館を訪れる人がさらに増え、展示室が賑わっていくことを願っています。

(学芸課長代理 中嶋 均)



オーギュスト・ロダン(考える人) 1880-81年



高橋 秀(アリスの月(黒)) 1976年



黒木清乃(春の夜の36あ) 1922年





少し先の話ですが、来年夏のルーヴル美術館展の準備を現在すすめているところですので、予告編としてその内容を少しご紹介しておきたいと思います。ルーヴルというとモナリザやミロのヴィーナスなどの有名作品が反響的に思い浮かびますが、かつての広大な宮殿の中には他にまだまだ奥が深いコレクションが収蔵されています。今回はこれまで日本では殆ど紹介されていない分野として「中世フランス美術」というテーマで企画を立て、作品をセレクトしています。



〈ライオンがいる洞窟の中のダニエル〉 12世紀前期

11世紀半ば頃に始まったロマネスク様式の寺院に由来する彫刻には、愛らしい人物や動物たちが刻まれたものがあるかと思えば、ケルトの組紐文様を思わせる奇怪な抽象芸術が見られる作品すらあり、実に変化に富んでいます。次いで、12世紀半ばから16世紀前半にかけて栄えたゴシック様式は、パリ中心に発達した大聖堂建築の芸術ともいわれており、洗練された軽やかさを特徴としています。聖母マリア像の慈愛に満ちた表情に触れることによって、当時の人々と同様、私たちが神への感謝や隣人への愛など見失いかけていた大切なものを再び取り戻す機会となるかも知れません。展覧会では、フランス美術の最大の精華とされる中世芸術を、この2つの様式の変遷を通してたっぷり堪能して頂けることと思います。

去る6月下旬に、ルーヴルの学芸員が長岡を訪れて会場視察が行われました。折しも県展が開催されている最中のことでしたが、工芸部門主任のダニエル・ガボリョーショパンさんと企画展示室をチェックした後、展示の際の注意点を細かく打ち合わせました。遠くて巨大なルーヴル美術館という存在が、少しずつ近づいてきたと実感した瞬間でした。(主任学芸員 平石昌子)

●下半期の行事案内

美術鑑賞講座 (聴講無料/講堂にて)各土曜日、午後2時より(予定)

- |   |                                       |
|---|---------------------------------------|
| 第2回 11月1日<br>大倉集古館の近代日本画<br>～ローマ開催日本美術展の日本画を中心に | 第6回 1月24日<br>描かれた油彩画の意味<br>～江漢から由一へ   |
| 第3回 11月29日<br>茨澤素一の版画                           | 第7回 1月31日<br>メモリー庵倉雄策<br>～遺品と資料       |
| 第4回 12月6日<br>パリの中世<br>～石と光の芸術                   | 第8回 2月7日<br>大正期の挿絵画家たち                |
| 第5回 1月17日<br>木版画の100年<br>～19世紀から20世紀にかけて        | 第9回 2月21日<br>リアリズムとは?<br>～画家と社会をつなぐもの |
|   | 第10回 3月6日<br>庵倉雄策と建築                  |

映画鑑賞会 (無料/講堂にて)各土曜日 ※ビデオ上映の回もあります。

- |  |   |
|--|---|
| 第2回 9月13日<br>アート・ドキュメンタリー<br>『親愛なるレイズ』(1995)       | 第5回 1月10日<br>名作!!<br>『キートンの大列車強盗』(1926)           |
| 第3回 10月18日<br>黒澤明監督<br>『野良犬』(1949)                 | 第6回 2月14日<br>巨匠の名画<br>加藤泰監督<br>『緋牡丹博徒・お竜参上』(1970) |
| 第4回 12月13日<br>アート・ドキュメンタリー<br>『落水荘・ライトと弟子たち』(1996) |   |

●表紙作品解説

土田 麦 僱 (山茶花) 1933年 (昭和8年)

68.8×102.8cm/絹本着色・輪装/第4回七絃会展

土田麦僱は佐渡の出身で、後に京都画壇を代表する画家となりました。西洋絵画の影響を受け、新しい日本画を生み出そうと様々な試みを行っていましたが、この作品は彼がその画業の最後に到達した境地を示しています。

静かに咲きこぼれる山茶花。左方には翼を広げた雀が配されていますが、動きは感じられず、まるで時の流れが止まったかのようです。枝を揺らす風も、鳥の羽ばたく音も消え去って、張りつめた空気の漂う画面となっています。この作品を描いた3年後、彼は49歳の若さで亡くなりました。

ワークショップ

- 発見! びじゅつかん
  - ◆美術館の"部分"発見 自由参加  
9/21日 午前10時～(約1時間)  
「これ何?」美術館の部分を知って見ると、意外な美しさや驚きも!
  - ◆め・い・ろな美術館 自由参加  
12/7日 午前10時～(約1時間)  
知らなかった美術館の裏舞台をめぐり、会場づくりを体験します。

美術館を楽しもう

- 私もあなたもアーティスト 自由参加  
9/9日～9/15日(祝日) 9時～5時  
巨匠の絵に自分で行うをつけてみよう。意外な大作が生まれるかも?その大作作も、どんだん展示!(9月15日まで)

——— 利用案内 ———

■開館時間 午前9:00～午後5:00  
※観覧券の販売は午後4:30まで  
レストラン/午前10:00～午後5:00  
(ラストオーダー 午後4:30)  
ミュージアムショップ/午前9:00～午後5:00

■休館日 (毎週月曜日)  
※ただし月曜が祝日の場合は開館し、翌日休館。および、9/29日～10/2日、12/25日～1/3日、3/25日～3/30日の各期間休館。

■観覧料金  
・企画展  
企画展によって観覧料が異なります。  
なお、企画展観覧券で、展示室1・2・3もご覧いただけます。  
・展示室1・2・3  
●一般/410円(330円)  
●中等教育(後期)・高校・造形専門・大学/200円(160円)  
●小・中・中等教育(前期)/100円(80円)  
※( )内は20名以上の団体料金です。  
●小・中学生は土・日・祝日の観覧料が無料になります。

THE NIIGATA PREFECTURAL MUSEUM OF MODERN ART  
新潟県立近代美術館

〒940-2083新潟県長岡市宮前町字藤掛278-14  
TEL.0258-28-4111(代) FAX.0258-28-4115  
http://www.lalanel.gr.jp/kinbi/index.html  
e-mail kinbi@coral.ocn.ne.jp

2003.9.1発行 6,000部

## 「裸形像二題」

新潟県立近代美術館長 水野 敬三郎

日本の彫刻史の上で「裸形着装像」と呼ばれている像があります。像を裸の姿に造り、これに実物の衣を着せるようにしたものです。像の種類としては阿弥陀如来・地藏菩薩・弁財天などの仏像のほか聖徳太子や弘法大師・日蓮上人などの高僧・祖師の像があります。いずれもいわゆる「生身」の像としての、つまりその像を生けるが如くに感じるための裸形着装にちがいありませんが、ふつうの木彫でなく、わざわざこの造りかたにした事情にはいろいろあるようです。

最近、日蓮上人像の裸形着装像を調査する機会がありました。銘文からその事情を推測できる数少ない一例として紹介します。千葉県大網の本国寺にある等身大の立派な像で、室町時代の天文15年(1546)に当時この地域を支配していた豪族を檀那とし、多くの僧俗が結縁して造ったものです。日蓮上人の像としてはもっとも古い、正応元年(1288)に造られた池上本門寺の像も実物の衣を着装していますが(但し內衣は彫出)、この像の場合は上人を慕う直弟子達が、上人が生前着用した衣を生きている上人にと同様に着せたものでしょう。本国寺像の場合はどうか。銘文中に大檀那の老母による袈裟の寄進をはじめ「はたつけ」(肌つけ)「はたかたひら」(肌帷子)などの寄進のあったことを記しており、それらは像に着装したものでしょうが、その寄進者がいずれも女性であったことが興味深く思われます。裸形着装像にしたのは女性達の意を受けてのことではなかったのでしょうか。平安時代の話ですが、尼寺である法華寺の華嚴会では善財童子に錦繡を縫い着せて供養したといい(「三宝絵詞」、大治5年(1130)待賢門院璋子が縫物の袈裟を着せた地藏菩薩像を造ったという記録があります(「長秋記」)。鎌倉時代の裸形着装像として有名な奈良伝香寺の地藏菩薩像は尼妙法が発願したものと知られ、これも造立に女性がかかわったことが注目されます。「生身」の仏を拝みたいという願いと同時に女性的な着せかえ人形の趣味の反映がうかがわれるように思います。

以前に調べた裸形着装像で、これとは別の造像事情がわかる一例も紹介しましょう。それは奈良の新薬師寺にある、「景清地藏」の名で伝わった地藏菩薩像です。高さは188cmばかり、かなり大きめの等身です。鎌倉時代のふつうの木彫像だと思われていたのですが、修理の際、実はもと裸形像として造られ、後に木造の着衣を貼装されていたことが明かとなりました。像内納入の嘉禎4年(1238)の願文に、興福寺別当をつとめたことのある実尊の菩提のためにその弟子僧尊遍が地藏菩薩像を造って実尊になぞらえ、昼夜に親近してこれに仕えんとするこ

とを記しています。先師実尊への切々たる思慕の情が溢れた願文です。おそらく実尊が生前着用した法衣などを、この裸形の地藏菩薩像に着せ、その生前と同様に奉仕したのでしょう。願文の中に「真と云い俗と云い厚恩を蒙る」という言葉もあり、この師弟の間には、師弟の域を超えた特殊な感情、関係が存在したのかもしれませんが。この像の場合には裸形に造ることに性的な意味あいを読みとってよいのではないかと思います。この裸形像に木彫の着衣が貼装されたのは、その衣文の彫りから13世紀後半と見られますが、その改変の理由としては、老境に入って死期の近いことを知った尊遍が、先師実尊に擬した地藏菩薩像を裸形のまま世に残すことに堪えられなかったのではないか、その裸形をかくして像の永久保存をはかったのではないかと想像しています。



日蓮上人像 (千葉 本国寺)



地藏菩薩像 体部 (奈良 新薬師寺)

### 館長による美術史連続講座

〈聴講無料/講堂にて〉各土曜日、午後2時より(予定)

第1回 10月4日 第2回 10月25日 第3回 11月22日